

ルカ 2:1-14

2:1 そのころ、全世界の住民登録をせよという勅令が、皇帝アウグストから出た。 2:2 これは、クレニオがシリアの総督であったときの最初の住民登録であった。 2:3 それで、人々はみな、登録のために、それぞれ自分の町に向かって行った。 2:4 ヨセフもガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。彼は、ダビデの家系であり血筋でもあったので、 2:5 身重になっているいいなずけの妻マリヤもいっしょに登録するためであった。 2:6 ところが、彼らがそこにいる間に、マリヤは月が満ちて、 2:7 男子の初子を産んだ。それで、布にくるんで、飼葉おけに寝かせた。宿屋には彼らのいる場所がなかったからである。 2:8 さて、この土地に、羊飼いたちが、野宿で夜番をしながら羊の群れを見守っていた。 2:9 すると、主の使いが彼らのところに来て、主の栄光が回りを照らしたので、彼らはひどく恐れた。 2:10 御使いは彼らに言った。「恐れることはありません。今、私はこの民全体のためのすばらしい喜びを知らせに来たのです。 2:11 きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。 2:12 あなたがたは、布にくるまって飼葉おけに寝ておられるみどりごを見つけます。これが、あなたがたのためのしるしです。」 2:13 すると、たちまち、その御使いといっしょに、多くの天の軍勢が現れて、神を賛美して言った。 2:14 「いと高き所に、栄光が、神にあるように。地の上に、平和が、御心にかなう人々にあるように。」

私は夜に外に出るのが好きです。皆さんは星空の下で一夜を過ごしたことがありますか。冬は特に空が澄んでいますから、とてもきれいに見えます。15年ほど前、私は夜に田舎町へ物資を運ぶ輸送トラックの運転手として働いたことがあります。夜の田舎町は本当に静かでとてもきれいでした。空には満天の星が見えました。

今夜は、ある重大な四夜についてお話したいと思います。ひとつめは、神が世界を造り終えられた夜です。ふたつめは、アダムとエバが罪を犯してしまった日の夜です。三つめは、イエスがお生まれになった夜です。そして最後に、イエスが私たちのために命をささげられた日の夜です。

では時間をさかのぼってみましょう。ずっとずっと昔、すべての始まりの時まで戻ります。この夜も空は澄み渡り、星が輝いていました。この日、すばらしいことが起こりました。神がご自身の被造物を見て、とてもよいとおっしゃったのです。

ひとつめの重大な夜は、神が創造の業を終えられた日の夜です。この世界はとても美しい姿でした。大自然のすべてが平和と安らぎに包まれていました。

神の被造物は完璧な状態でした。病気やけがを負った人や動物はいません。人は体も心もたましいも健康そのものでした。リューマチ、頭痛、糖尿病、ガン、高血圧、心臓疾患など、現代の私たちには身近な病気は、ひとつもありませんでした。すべてにおいて、神が栄光をお受けになっていました。

では、そこから少し時を進めます。罪がこの世に入り込んだ日です。

この夜、空は雲に覆われ、星は見えませんでした。ひどいことが起こってしまいました。サタンが人をそそのかし、神に逆らうよう仕向けたのです。

神に逆らったことで、人はこの世を支配する権利を失ってしまいました。大自然は互いにいがみ合い、人にも挑みかける存在となりました。神が人類に与えてくださったものを、人はサタンに手渡してしまったのです。この世は、命に満ちたかつての美しさを失い、死が影を落とす暗く冷たい世界へと変わりました。

平和と安らぎは、苦悩と混乱に取って代わられました。そして血が流されるようになりました。この世が墮落したせいで、すべての生き物に死がつかまとうようになりました。人間までもが互いに殺し合うようになり、争いや戦争がおこりました。殺し合いで今までに流された血をすべて集めたなら、きっと海のようになるでしょう。

楽園はもはやありません。自然の美も破壊され、人の健康も損なわれました。人は病気やけが、老齢が原因で死ぬようになりました。肉体はその力を維持することができなくなり、あらゆる痛みが日常の一部となりました。

罪がこの世に入り込み、死と破滅をもたらしました。暗闇と恐れが、栄光に満ちた楽園を消し去りました。それでも神は、未来の希望を指し示してくださいました。この世に対するサタンの支配力をサタン自身とともに踏みつぶすお方が来られると神はおっしゃいました。このことにおいてもまた、神が栄光をお受けになりました。

時間を早回しして、別の夜です。この夜、空には星がまたたいていました。すばらしいことが起こりました。神は、飼葉おけに眠るご自身の御子をご覧になったのです。

イエスがお生まれになった夜、羊飼いたちが近くの野原にいました。神の栄光に照らされた御使いが彼らのもとにやってきました。恐れおののく羊飼いたちに、恐れなくてよいと御使いは言いました。御使いはすばらしい知らせを携えて来たのです。「救い主がお生まれになった」という知らせです。このお方こそ、この世を死と絶望から解放してくださるお方です。そして、多くの御使いたちが現れて、このように歌いました。「いと高き所に、栄光が、神にあるように。地の上に、平和が、御心にかなう人々にあるように。」

この赤ちゃんは人間として成長しました。このお方は罪の力を無効にされました。このお方をおして、私たちは本当の命を受け、この世を支配するサタンの力から自由になることができるのです。イエスは私たちをサタンの支配から解放し、神にある命を与えてくださいます。その命は終わることがありません。それは、神が本来造られた命のあるべき形です。

では、あの赤ちゃんがどのように成長してこれを成し遂げたのでしょうか。

時間を **33** 年ほど進めましょう。イエスは **33** 歳のとき、ご自身の命を十字架上でおささげになりました。この夜、雲に覆われた空には星はありませんでした。イエスは、ご自身が犯さなかった罪の重荷を背負って苦しめられました。イエスは愛と赦しについて教えられました。そして、私たちに救いをもたらされました。けれども、イエスが救おうとした

人々が、イエスを殺してしまったのです。イエスの死そのものこそ、彼らが救われるために必要なものだったのです。

こんな昔話があります。昔々、商人たちが帆船で海を渡って商いをしていたころのことです。ある船が嵐に遭いました。船は陸からずいぶん離れた場所で岩礁にぶつかり、船底に穴が開いてしまいました。海水が勢いよく船に入り込み、船乗りたちが水をくみ出そうとしてもとうてい追いつきません。船は沈み始めました。経験豊かな年配の船長は船乗りたちに告げました。「船は沈没するだろう。人も物もすべて海に沈むことになる。船と乗員乗客を救う方法がただひとつある。それは、誰かが海に飛び込み、船底に開いた穴を見つけて自分の体でその穴を塞ぐこと。」船長はこう言うと、誰か進んで行ってくれる者はいかと尋ねました。するとすぐに、ひとりの船乗りが名乗り出ました。船長は悲しげに、その人を連れていきました。海に飛び込む場所につくと、船長は悲しみのあまり船員をぎゅっと抱きしめました。船員が海に飛び込むと、船長は顔を背けました。まもなく穴は塞がれ、乗員乗客の命は助かりました。ひとりの人が自らを犠牲にしてくれたおかげです。船が港に無事到着すると、船員の亡骸が水中から慎重に引き上げられました。彼の遺体を見て、船長は涙を流しました。そこにいた新人の船員が、「船長は船員たちを大切にしているのだな」と言うと、先輩の船員がこう答えました。「もちろん、船長は船員たちを大事にしてくれるさ。でも知らなかったのか。あの船員は船長の息子だったんだ」

クリスマスの季節、私たちは過去と未来に目を向けます。昔お生まれになった飼いやおけの赤ちゃんを思うとき、それは美しく平安な情景です。けれども、イエスは私たちのためにご自身の命をささげるためにこの世に来られました。神は、ご自身の大切な御子という犠牲を払って、私たちを罪から贖われたのです。

イエスが死なれた夜は暗闇の夜でした。けれども、それで終わりではありません。神はこの悲劇を勝利に変えてくださいました。これは最初から神のご計画でした。神が私たちをどれほど愛してくださっているか示すためです。イエスは十字架上で死なれましたが、死からよみがえられました。

イエスは使徒ヨハネに幻で現れました。そのときにおっしゃったことばが、黙示録 1:17-18 に記されています。「恐れるな。わたしは、最初であり、最後であり、生きている者である。わたしは死んだが、見よ、いつまでも生きている。また、死とハデスとのかぎを持っている。」イエスが死んでよみがえられたからこそ、私たちに永遠の命を与える力と権威を持っておられるのです。

私たちにとって、死は避けられない悲しい現実です。けれども、この時季、私たちは命を祝います。私たちのために生まれてくださった赤ちゃんの命、そしてこのお方からいただく永遠の命を祝うのです。私たちも皆いつかは死にます。けれども、イエスを信じているなら、死の向こうに何があるかは明らかです。命です。イエスは天の父なる神のもとへ私たちを連れていってくださいます。

クリスマスに、**2000** 年前にイエスが赤ちゃんとしてお生まれくださったことをクリスチャンは祝います。クリスマスは、喜びとすばらしい知らせのときです。けれども、神には大きな犠牲が伴いました。それは、神の御子イエスの命です。クリスマスを祝うとき、その本当の意味を思うことができますように。そして、神がしてくださったことのすばらしさを感じることができますように。